

◇学校運営の反省と次年度の構想 大山浩司校長

○近況の報告として、本校の伝統行事である凧作りと凧揚げを実施した。教員の凧作りの研修に保護者にも案内を行い2名の参加があった。その保護者の方が、凧作りの時にきた保護者や子ども達にアドバイスをしてくれた。このように輪が広がるので、次年度も案内をしていき、学校と地域が共に協力した行事運営にしていきたい。



○6年生を送る会が行われた。5年生が事前準備からリーダーシップを発揮して取り組んでくれた。5年生にとっては達成感を感じるものとなり6年生にとっては、感動から涙する児童もいてとても良い会となった。この会を通して6年生から5年生に、主体的にまた思いやりや協力の面で児童の育ちのバトンが繋がれていくと感じている。

○学校評価アンケートについて、今年度からめざす子ども像を変えているので質問項目を若干変えている。主体性の育成に関わる質問項目。協調性の育成に関わる質問項目。学校運営全体に関わる質問項目の3つに分けている。また、質問にできるだけ返せるように無記名から記名でのアンケートにしている。

○「楽しく学校生活を送ることができているか」については、保護者が99%、児童が95%と評価してくれている。児童はその日の気持ちで変わることもあると感じている。学校の生活の中では得意でないことや辛いこともある。総合的に学校での生活は楽しいと感じてもらえるよう職員一同で温かい学校、温かい学級づくりに努めていきたい。

○保護者の方には「家庭で読書に親しんでいますか」という質問(36%)、児童には「読書をするのは好きですか」の質問(81%)に変えた。結果からすると、児童は読書が好きなのに家庭では、習い事等でその時間がとれないことが予想される。家庭での読書時間を増やすことより、読書が好きなお子どもを増やすことに力を入れていき、家庭でも可能な限り読書の時間を確保できるよう呼び掛けていきたい。

○望ましい生活リズム(早寝早起き、メディアコントロールなど)については、児童は比較的自己評価が甘く(81%)、保護者の目では低い(62%)。本校でもスマホ等のメディアコントロールについては課題としている。三川町共通の取り組みを本校でも家庭と連携して取り組んでいきたい。

○協調性に関わる質問で「進んであいさつや返事をしていますか」について、児童は高い数字を示している。(91%)しかし、保護者や教員はまだ十分とは言えないと考えている。子どもたちには、あいさつは気持ちが伝わるように、相手が喜ぶようにすることが大事だと話している。

○学校運営に関わる5つの質問においては高い評価を頂いている。特に、主体性や協調性を育む取り組みに関わっては保護者の方にご理解を頂いている数字であった。

○次年度に向けた学校運営の構想について、大きく教育課程を変えるようなことはない。年間の授業日数を207日(今年度)から204日へ3日減らしている。今年度は6時間授業の日を減らすために工夫してきた。次年度は、6時間授業を増やすことなく3日減らす計画ができた。

○週時程の変更として給食後に、月・水・金は昼休みあり、火・木は全校清掃として15分早く下校できるようにしている。ロング昼休みは金曜日のみになるが、児童は早く帰宅できるのであればと納得している。また、スクールバスが3往復している現状から15分早く帰れることで負担軽減となる。

○保護者からの自由記載の意見に、登校班の必要性や学校サポーター活動の種類が少なかった等の意見を頂いた。頂いた声を活かしながら今後の学校運営を行っていきたい。

## ◇学校運営の反省と次年度の方向性に対する質問と意見 各委員より

- 東郷小学校の子どもたちは立派ですごいと感じている。子どもたちのスマートフォン普及率（三川町全体）を知りたい。下校時は、登校班という感覚が薄れているように見える。町内会に近づくとどうしても班が縦長になって1人で歩いていることもある。クマ出没時などは心配である。
- 町での普及率などの調査はないが、小学生でスマートフォンを持っている家庭も増えてはいるようだ。
- 登校の際は登校班でまとまっているが、下校時にはご指摘のような状況が見られるので学校でも注意している。クマ出没の際や夏の高温時は、校長や教頭が車で下校時の安全確認を行っている。
- 下校時の様子を見守ってくれている地域性に保護者として感謝している。学校の情報発信がSNS化してきている。なかなかすぐに目を通すことができないことも多く、紙のお便りが安心することもある。特に祖父母と一緒に生活している家庭もあり家庭内での情報共有にもつながる。
- 紙ベースだと親に情報が伝わらないという家庭もあり、SNSでの希望もある。今後の検討課題ではあるが、学校としては両面での情報提供することはやぶさかでない。



- 通信簿渡し（年2回）が保護者来校の形となって2年目のようだがそれについてはどのような状況か。
- 家庭訪問や地区懇談会等がなくなり、学校（担任）と家庭の懇談する機会が減少していることから、来校をお願いしている形になっている。子どもの状況や頑張りをお知らせできるよい時間となっている。
- 自分の子どもにはスマートフォンを持たせている。勉強しながら脇に置いて見たり聞いたりしているようだ。あいさつについては、「ただいま」「おかえり」などのあいさつはあるが、「おはよう」のあいさつはあまりない。大人としても、会社では「おはようございます」とあいさつはするが

家ではとくに意識しないことが多い。地域との関わることも年々少なくなりつつある。サポーター活動への参加が少なくなっている。

- 小学校でどのようなサポーターを必要としているのかをお知らせしていただくと地域の協力もしやすくなるのではないか。

## ◇その他（学校課題や熟議テーマについて）

- 学校規模によって、大規模は大規模のよさがあり、小規模は小規模のよさがある。6年生の夢を見て、4人の子どもが「教師」と書いてくれている。温かい学校・学級づくりに取り組んできたこと、職員と子どもの関係づくりがうまくいっているように感じる。子ども一人ひとりと十分に接する時間がもてていることが小規模校だからよさである。
- 子どもの数が減ってきていることは、地域活動そのものに大きな変化となってきている。
- 子ども一人ひとりの活躍の場はとりやすい。社会性を伸ばす点ではデメリットとなる。
- 道路交通法の改正により、自転車の走行路の確認が必要な個所があると思うので今後の検討が必要となる。家庭でも危機感をもって重要視する必要がある。

